

中学校第3学年国語科学習指導案

1 日 時 令和3年11月19日(金) 14:20～15:10

2 学年・組 広島市立亀崎中学校 第3学年

3 単元名 「挨拶—原爆の写真に寄せて・仮繻帯所にて」

4 単元について

(1) 教材観

「挨拶—原爆の写真によせて」は石垣りん作の口語自由詩である。この詩には様々な表現技法が用いられ、戦争を忘れ平和に浸っている現代人に対する警鐘が、暗喩的な表現とともに語られている。「仮繻帯所にて」は峠三吉作の自由詩である。この詩にも様々な表現技法が用いられ、一発の原子爆弾による被害の凄惨さが、直接的な言葉でありありと表現されている。特に「挨拶」は、結末にある「油断」の具体が示されていないことから、経験や知識に照らしながら批判的に読む力を育成することに適している。また、詩の暗喩的な表現を読み解くことで作者の意図に近づくことができる「挨拶」と、直接的な表現によって原爆の被害のむごさを訴える「仮繻帯所にて」を比べながら読むことで、詩の内容について生徒の主体的な思考を促すと考えられる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、5月に実施された全国学力・学習状況調査において、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」問題の正答率が13.5%と苦手意識がみられた。また、「文脈の中における語句の意味を理解する」問題の正答率も32.4%と、やや苦手としている。

これまで物語文や詩の学習では、語句の意味を捉え内容を理解する力の向上が見られるものの、語句に込められた意味を吟味する経験は十分ではない。本単元では、時代背景や、作者の置かれた状況等を丁寧に確認した上で、詩の中での語句の用いられ方や表現技法などに着目し、詩の主題についてそれぞれの考えが深まるよう指導していく必要がある。

(3) 指導観

本単元では、中学校学習指導要領解説国語編「C 読むこと」領域の、「イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること」と、「エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」を目標としている。特に作品の言葉一つ一つについて批判的に意味を吟味できるよう、作品の第一印象をグラフ等で視覚化し、その違いについて作品の言葉を根拠に説明し合う活動を行う。また、「挨拶」と「仮繻帯所にて」を並読することでそれぞれの作品のものの見方・考え方を比較し、自分の考えをもつ力の育成を図る。

5 単元(題材)の評価規準

(1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。

【知識及び技能】((2)ア)

(2) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。

【思考力、判断力、表現力等】(C(1)イ)

(3) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見をもつことができる。【思考力、判断力、表現力等】(C(1)エ)

(4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・具体と抽象など情報と情	・文章を批判的に読みながら、文章に	・言葉がもつ価値を認識すると

報との関係について理解を深めている。	表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。(C(1)エ)	ともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとしている。
--------------------	---	--

6 本單元における言語活動

シンクロメーターを作成し、今と昔の「油断」について考えることで、作者が詩に込めた思いを考える。

7 単元（題材）の指導計画と評価計画

		学習活動	知・技	思・判・表	態度	評価方法
第一次	第1時	・時代背景や作者の置かれた状況を理解した上でそれぞれの作品を通読し、学習の見通しをもつ。 ・それぞれの詩を読んでもった感想や印象をまとめ、交流する。				授業観察 ノート
第二次	第2時	・作者が「仮繻帯所にて」に込めた思いを円グラフに表す。 ・対比表現に着目して詩の前半を読み、被害を受けた女学生の凄惨な姿を読み取る。		◎		授業観察 ノート
	第3時	・反復表現に着目して「仮繻帯所にて」の後半を読み、詩に込められた作者の心情を捉える。 ・作者が「仮繻帯所にて」に込めた思いを、再度円グラフに表す。		◎		授業観察 ノート
	第4時	・「挨拶－原爆の写真に寄せて」を読み、内容について理解する。		◎		授業観察 ノート
	第5時	・作者の表現の工夫や詩の中の言葉に着目して、現在と過去の共通点や相違点を考え、作者が詩に込めた思いについて読み取る。	◎	◎	○	授業観察 ノート
第三次	第6時	・前時まで学習したことを基に、詩から読み取った作者の思いと、それに対する自分の意見を300字程度でまとめ、感想や意見を述べ合う。		◎	○	ノート

8 本時について

(1) 本時の目標

表現の工夫に注目して、作者が詩に込めた思いを読み取ろう。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿（Bと判断する状況）
知識・技能	詩の具体的な表現や抽象的な表現など情報と情報の関係について理解を深めている。	作品の抽象的な表現から具体的な例を説明したり、具体的な描写を根拠に主題をまとめたりしている。
思考・判断・表現	詩を批判的に読みながら、詩に表れて	詩の表現を様々な角度から吟味し、詩の主題

	いるものの見方や考え方について考えている。	をまとめている。
主体的に学習に取り組む態度	積極的に使われている言葉や表現技法などに着目しながら詩を分析し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	詩の表現に込められた意味について語り合ったり、気づいた内容をノートにメモしたりしようとしている。

(3) 本時の学習過程

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準（評価方法）
導入	<p>1 本時の課題を把握する</p> <p>(1) 前時の学習の振り返りをする</p> <p>(2) 本時の目標を知る。</p>	<p>・学習の見通しをもてるように、前時までに学んだ表現の着眼点をスライドに示す。・対比・反復</p> <p>・目標を示し、見通しをもたせる。</p>	
表現の工夫に着目して、作者が詩に込めた思い（主題）を読み取る。			
展開	<p>2 対比表現や反復表現が用いられている部分に線を引かせ、表現の工夫に目を向けさせる。</p> <p>3 「油断」という言葉について、今と昔で質の違いがないか考える。</p> <p>(1) シンクロメーターを作り、自分の思考を整理する。</p> <p>(2) 今と昔の共通点や相違点を挙げ、「油断」について考える。</p> <p>(3) 少人数グループでお互いの意見を交流する。</p> <p>(4) 全体で共有する。</p> <p>5 交流を通して考えたことを踏まえて、作者がこの詩に込めた思い（主題）をまとめる。</p>	<p>・詩の中の表現や知識を根拠に挙げながら理由を説明できるよう、適切に説明できている生徒を全体に紹介する。</p> <p>・共通点が挙げられない生徒には、反復表現に着目するよう促す。</p>	<p>思・判・表</p> <p>詩の表現を様々な角度から吟味し、詩の主題をまとめている。</p> <p>主</p> <p>詩の表現に込められた意味について語り合ったり、気づいた内容をノートにメモしたりしようとしている。</p>
まとめ	<p>6 本時の学習を振り返る</p> <p>・前時に考えた詩の主題と比べて、新たに考えられたことや読み取れたことや、どのように考えることでそれらが出来たのかを視点として示す。</p>	<p>・自身の変容に気づけるようにする。</p>	

(4) ワークシート

→ 前時のまとめ(作者が詩に込めた思い)



◎シンクロメーター

➡ 『2021年11月19日を生きる私たち』と

『1945年8月6日に広島にいた人たち』の は同じものなのだろうか？

今と昔の共通点

今と昔の相違点

☆私たちの「油断」とは…？

→ ◎再考 作者が詩に込めた思い


